

# 医療の最前線レポート

ニューズウィーク日本版

# Newsweek®

低侵襲から  
再生医療まで  
医療の現場は  
ここまで進化した

# 世界の 最新医療

# 2021

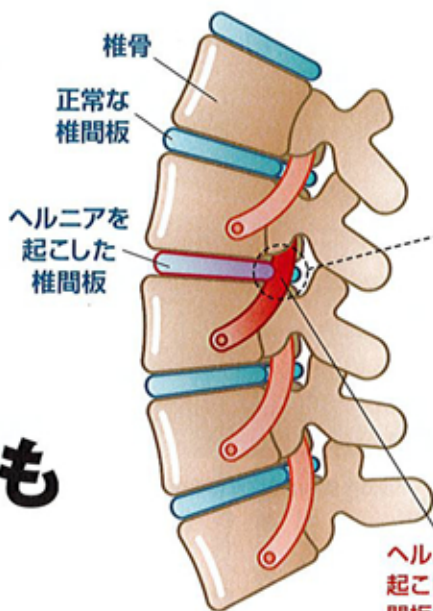
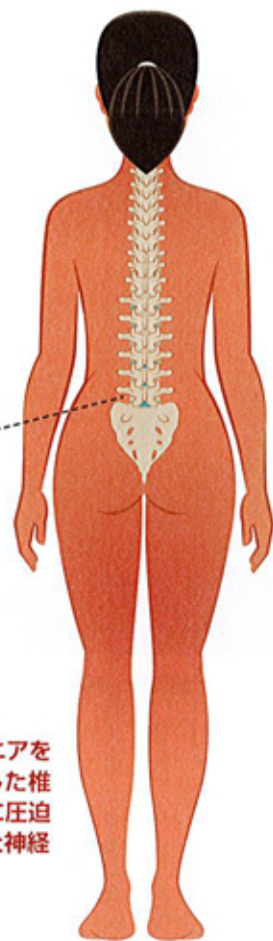
**トピックス** 再生医療 | 人工関節置換  
低侵襲がん治療 | 腎臓 | 糖尿 | 皮膚炎

**医療技術** 緑内障 | 心臓 | 脳神経  
睡眠 | 生殖医療 | 遺伝子検査 | AI  
人工臓器 | アルツハイマー

**ケア&予防** 感染症ワクチン | 遠隔医療  
健康診断 | 心療内科 | 歯科 | 腸 | 食事







ヘルニアを起こした椎間板に圧迫された神経

脊柱

人類が二足歩行を手に入れるのと引き換えに、背負わされた「腰痛」。特に「骨」

に起因する腰痛の原因はいろいろあるが、大半は背骨の内側を走る神経が、骨や軟骨に当たって刺激を受けて痛みを起こすもの。「腰部脊柱管狭窄症」や「腰椎すべり症」、「腰椎椎間板ヘルニア」が代表的だ。

症状は人によってさまざま。たまに軽く痛む程度の人から、激痛で身動きが取れない人、腰痛のストレスで鬱症状を引き起こす人もいる。症状の大きさや年齢、ライフスタイルでも変わる「腰痛治療」を検証する。理科室の人体標本などで人の骨格

## A LESS INVASIVE TREATMENT

# 人類を苦しめる腰痛も 痛い治療にさよなら

**脊椎脊髄** 背骨の内側を通る神経への刺激で起きる痛みの治療法は低侵襲手術が日進月歩で進化する

を見ると、頭の直下（首の後ろ）からお尻まで続く背骨（脊柱）は、「細長い1本の骨」に見える。しかし実際には、中央に穴の開いた「椎骨」という骨が24個重なることで「1本の背骨」を形成している。分りやすく言うと、24個のドーナツを縦に重ねたようなもの。一つ一つの椎骨の間には椎間板というクッションがあるので、背骨が比較的フレキシブルな動きができる。

「ドーナツ」を重ねて作った脊柱の穴の中を、神経が走っている。骨という頑丈なトンネルで守られているので安全な空間だが、加齢や外傷などで椎骨が変形したり、椎間板がつぶれることもある。その結果、骨やクッションの一部がトンネルの内側にはみ出して神経に刺激を加えると、痛みやしびれなどを引き起こす。

椎間板がすり減って椎骨の内側が変形すると、トゲのような骨（骨棘）が伸びてくることもある。これが神経を刺激するのが「腰部脊柱管狭窄症」。椎間板の劣化で椎骨がずれるように変形して神経を刺激するのが「腰椎すべり症」。そして椎間板を構成する髄核という軟らかい組織が飛び出して神経を刺激するのが「腰椎椎間板ヘルニア」だ。

治療法には、痛み止めの薬を使う薬物療法、患部を支えるために筋肉

を強化する運動療法、麻酔薬を注射して神経を鎮めさせる神経ブロックなどがある。これらの「保存療法」で症状が改善することもあり、症状が改善すれば、たとえ画像上で異常が残っていても「治療」となる。反対に、保存療法で症状が消えないときには外科的手術が選ばれる。

神経を圧迫する骨や組織を取り除くので「除圧術」、あるいは除圧した上で骨を固定する「除圧固定術」と呼ばれるこの手術、従来は背中を切開して局部に直接アプローチする手術が行われていたが、近年は低侵襲手術が導入されるようになった。いわゆる「内視鏡手術」の仕組みを腰痛手術に取り入れたものだ。

背中に小さな穴を開けて、そこから神経が損傷を受けているところまで管状の器具を挿入。その管に内視鏡と手術器具を通して、内視鏡が映し出す患部を見ながら神経に刺激を与えている箇所を修復する手術だ。

この分野はまさに日進月歩で新しい手技の開発が続いており、医療機関や医師によって導入する技術も異なる。それだけに、どの治療法が自分にとって最適なのか、どんなリスクがあるのかなど、患者自身も最低限の知識を身に付け、治療方針の検討に積極的に加わる必要があるだろう。

# 最新の低侵襲手術も充実、 脊椎脊髄特化医療を首都圏に。



慶應義塾大学医学部卒業。川崎市立川崎病院、国立病院機構村山医療センター等を経て現職。2012年2月、平和病院横浜脊椎脊髄病センター設立。医学博士。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

平和会理事・副院長・センター長  
**田村 睦弘** Mutsuhiro Tamura



医療法人平和会  
平和病院 横浜脊椎脊髄病センター

〒230-0017

神奈川県横浜市鶴見区東寺尾中台29-1

TEL.045-581-2211

<https://www.heiwakai.com/spine/>

■ 診療時間：9:00～11:30/14:00～16:30

■ 休診：土曜午後・日曜・祝日

■ 診療科目：内科・外科・脊椎外科・緩和ケア内科

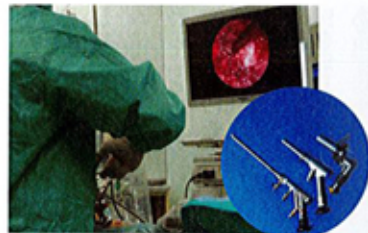
横浜の地域医療に貢献してきた平和病院が2012年に開設したのが横浜脊椎脊髄病センターだ。開設時からセンター長を務める田村睦弘医師は、25年のキャリアで多数の手術を手がけてきた脊椎脊髄疾患のエキスパートだ。

「脊椎脊髄疾患に特化した地域医療を横浜から首都圏へ」

田村センター長は、薬物療法、運動療法、神経ブロック治療などの保存的治療から内視鏡や顕微鏡手術、低侵襲手術などの幅広い選択肢を地域の患者に提供することが同センターの使命だと語る。

「脊椎脊髄疾患では、体内で最も硬い骨と、最も軟らかい脊髄や神経を同時に扱うため、特に専門的な知識と技術が必要になります」  
首や肩、腰や臀部、上肢、下肢の痛みや麻痺など、辛い症状を改善するのに貢献するのが、最先端の低侵襲手術だ。

「本当に必要な手術だけを見極め



腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアの内視鏡手術。脊椎に小さな穴を開け、細い金属の筒を入れて、内視鏡(カメラ)と手術器具を挿入し、ハイビジョンモニターを見ながら除圧術を行う。

る。そして、「治る」ため「生活の質を上げる」ための治療の選択肢は豊富に持っていてほしい」

20mmほどの切開でヘルニアを切除する内視鏡下椎間板切除術(MED)、直径8mmの内視鏡を椎間に挿入する経皮的内視鏡下椎間板切除術(PED)など、最先端低侵襲手術は同センターの真骨頂。

平和病院 横浜脊椎脊髄病センターは、豊富な経験と最先端技術で患者一人ひとりにベストな治療を提供し続けている。